

アネモネ モナリザ・シリーズ ポット生産ガイドライン

切花で抜群の人気を誇るアネモネ・モナリザ・シリーズを
ポットで出荷してはいかがでしょう

モナリザ・シリーズは下記のように幅広い花色もっており、切花のみならずポット生産に用いても、ユニークな仕上がり期待できる品目です。

| | | |
|----------|------------|------|
| バイカラーレッド | オーキッドシェード | ホワイト |
| ディープブルー | ピンクブラッシュ | ワイン |
| ディープレッド | スカーレット(アイ) | ミックス |
| ピンク | ラベンダーシェード | |

プラグステージ

発芽

モナリザ・シリーズは、18.5℃から21℃が発芽適温で、この条件で10日から2週間で発芽します。パーミキュライト等で覆土すると発芽揃いがよくなります

プラグの生育環境

ステージ3くらいまで18.5℃から21℃を維持し、ポット上げの直前のステージ4になったら数度下げます(15℃から18.5℃くらいが範囲)

肥料

ステージ2の初めから、週2回程度14-0-14と20-10-20のタイプの肥料を50ppm(N)で与えます。ステージ3以降は、濃度を100ppmに上げて、同様の方法で与えます

湿度

アネモネの苗は、生育が遅いので、育苗期間中の防疫は重要です。ファンガスやショープライ等の害虫を抑えるため、ハウスの中で害虫防除を行うための適切な湿度管理が重要です。プラグ生産のステージにおいては、定期的な薬剤散布を徹底し、これらの害虫による被害を広めない注意が必要です。この湿度管理は、スリップスによって有害なウイルスを他の健康な個体に感染させることを抑制する上でもとても重要です

出荷までのタイミング

392穴トレイに播種した場合で、プラグの養生期間は平均で約8週です。サイズの大きなプラグトレイでは、さらに時間がかかります

NOTE: アネモネの根は濃褐色が自然な色であり、この色の特徴を覚えていると、根に病斑等の徴候が現れた場合に、どのような変質が起きているかの判断基準になります。

ポットから出荷まで

出荷までのタイミング

モナリザ・シリーズは、10cmポットに上げると約20週で出荷に適した株に仕上がります

温度

ポット上げ後は昼間温度を15から18℃、夜温は13℃を維持するようにします

肥料

アネモネは比較的、栄養価の高い土質を好みます。プラグから根が張り始めたら、1週に一度15-5-15にカルシウム・マグネシウムを添加した肥料を200ppm(N)与え、硝酸カルシウム200ppmと交互に与えます。アネモネは低温下でよく育つ植物なので、過度な栄養生長を防ぐためにもアンモニア態の肥料は避けます

矮化処理剤の使用について

ポット用にモナリザ・シリーズ生産するには、適切に矮化剤の処理を施す必要があります。基本処理としては、10cmポットの場合、ボンザイ2ppmを定植6週間後にかん注で与えます。回数は一度で十分効果がありますが、希釈濃度は4ppmを上限することを守りましょう。ボンザイの効き具合は、プラグのサイズや出荷鉢の大きさ、あるいは時期によって異なることが考えられます。時期に関しては、気温の高い夏季においては1週早くボンザイの投与が必要になるかもしれません。ボンザイを与える前に、根が十分に生長し、張っているかを必ず確認しましょう

病害虫の問題

灰カビやウドンコ、炭疽病などは、アネモネには厄介な病気として知られています。そういった病気による問題を減らすため、(特に夕方以降は)葉をぬらさず水はけのよい用土を使うようにしましょう